

調布の

# 清掃作業員さんに聞きました!

part7



調布市ごみ減量・リサイクルキャラクター  
リサッチョ

## 古布回収事業者にインタビュー

市内のご家庭から出される古着やタオル、毛布などの古布類。収集された古布類は、クリーンセンターに集まった後、大型車両に積みかえられて、リユース(再利用)施設「有限会社 富商」羽村工場に搬送されています。今回は、古布類の資源化処理作業を行っている富商の大津留さん・川畑さんのお二人にお話を聞きました。

富商の大津留さんと川畑さんです。休日の過ごし方は、大津留さんはよくご夫婦でお出かけして、お酒や食事を楽しむそうです。川畑さんは愛犬のお世話や、オートバイに乗って過ごしているそうですよ♪それではお話を聞いてみましょう!

### Q1 どのような作業をしていますか。

自治体や業者が回収した古布類のうち、汚れや濡れ、欠損があるものを取り除き、リユースできるものを加工(梱包)し、主にマレーシアに輸出しています。マレーシアに運ばれた古布類は衣類など種類別に仕分けされ、現地やインド・韓国などの海外でリユースされます。

### Q2 作業をしていて特に大変なことは何ですか?

湿ってカビが生えたり、使い古したものや汚れたものなどはリユースできないだけでなく、輸送する際に他の古布を汚したり傷めるため、処分される古布を増やしてしまうことにつながります。また、おもちゃや家電などの異物が古布に混入し、発火やケガの原因になることもあります。こういった、正しく排出されていないものを取り除く作業が特に大変です。



「有限会社 富商」の川畑さん(左)と大津留さん(右)



### Q3 コロナ禍の様子はいかがでしたか。

輸出先のマレーシアなどがロックダウン(都市封鎖)した影響から、古布類の受入れが完全に停止されたことや、コンテナ代の高騰が重なり、国内での滞留を余儀なくされました。一時は調布市などの自治体が回収した古布の受け入れ停止を検討しましたが、せっかく資源として集まったものが燃やされてしまうのは、富商としても避けなければならない事態と捉え、国内に一時的に貯留できる倉庫を確保することで、何とか受入れを継続することができ、危機を乗り越えることができました。



作業中の様子



### Q4 やりがいを感じるのはどんな時ですか?

皆様のご家庭から資源として集まった古布類は、世界中で繰り返しリユースされています。皆さんの分別や、自治体や海外で作業する方々と協力し、まだまだ使えるものが世界規模でリユースされていることに、大きなやりがいを感じています。



圧縮(上)し、梱包(下)した古布類

### Q5 大津留さんが日頃行っている、ごみ減量への心がけを教えてください。

物を購入する際は、過剰包装されていない商品や長く使えるものを吟味し、積極的に選択するなど、無駄な買い物をしないよう心掛けています。

### Q6 最後に市民のみなさんに一言お願いします。

ごみカレンダーなどを確認し、正しい方法で古布を出していただきたいです。古布は濡れると品質が下がるためリユースできず、それらはせっかく資源として集めても処分されてしまいます。雨の日は、古布の排出をお控えいただきますよう、ご協力をお願いします。

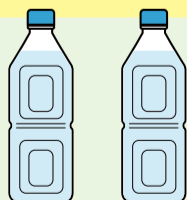


## 夏季(7月~9月)の収集頻度にご注意ください

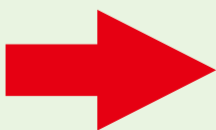
通常期

7月~9月

ペットボトル



2回/4週



3回/4週

燃やせないごみ(有害ごみ)



2回/4週



1回/4週

猛暑期における安定した収集体制を維持するため、今年の7月から9月にかけて、「ペットボトル」と「燃やせないごみ(有害ごみ)」の収集頻度については、左記のとおり変更していますのでご注意ください。

なお、詳しい排出日については令和5年度版ごみリサイクルカレンダー4、5ページをご確認ください。

ごみ対策課 業務係  
☎ 042-306-8200

